

モバイル族の道具はどうなる？

モバイル接続の今昔

旅行に出かけるときは、ノートパソコンを持っていくことが多い。これさえあれば世界中どこにいても、その気にさえなれば、原稿を書いたり仕事の連絡をとったりすることができる。このようなモバイル族が世界中で増えているものと思われる。彼らの道具はどう変わってきて、今後どうなるのだろうか？

昔は、海外の出張先から国内へ連絡をとるには電話しかなかった。やがてパソコン通信が使えるようになると、海外出張にはノートパソコンを持参して電話代を節約した。そして、1990年代の半ばからインターネットが普及し出すと、これを使ってメールを送るようになった。

出張先のホテルでノートパソコンを電話回線につなぐときは、電話機の電話線を外してパソコンに接続し、ダイヤルアップ接続でつなぐのが普通だった。アメリカだけでなく、インドネシアやブルネイのホテルでもこうして国内と連絡をとった。ホテルの電話交換機によっては、外線接続のための「0」のあと、次の番号までの間にちょっと間をとる必要があるものがあり、これをパソコンにやらせるために電話番号の設定に工夫が要ることもあった。しかし、古い由緒あるホテルで、電話機の接続がモジュラ・ジャックになってないところではどうしようもなかった。その点、最近できた安モーテルなどの方が問題は少なかった。

最近泊まった日本のペンションの電話は、1か所が ISDN、もう1か所が IP 電話になっていて、簡単にダイヤルアップで接続できず困った。回線の高速化で、旅行者にはかえって不便になってしまった。また、軽井沢の宿泊先を探していたら、各室に LAN の接続口が用意されているホテルが見つかったのでそこを利用した。そのホテルの部屋に入ると、LAN があるかわりに電話がないので驚いた。後でそのオーナーに聞いたら、「最近のお客さんは、ほとんど携帯電話を持って来るので、電話の設備を入れるのを止めてその分安くしました。そして、中にはインターネット

を使いたいという人がいるので LAN を用意しました」と言っていた。

今後はどうなる？

オフィスや家庭でブロードバンドが一般化したので、従来のようにホテルなどの電話回線でインターネットにつなぐのは遅くて耐え難くなった。したがって、今後設備の整ったホテルは各室に LAN の接続口を用意するようになるだろう。

しかし、すべての旅館やペンションが LAN の設備を用意するのは難しい。携帯電話はデジタル情報のパケットを扱っているので、データ通信に向いている。そして速度も上がり、たとえば NTT ドコモの FOMA は、現在は最大 384kbps だが、2005 年にサービスを始めるという HSDPA (High Speed Downlink Packet Access) では、技術的には最大 14.4Mbps になる。現在の一般の LAN や ADSL に匹敵する速さである。したがって、今後外出先では、携帯電話機やデータ通信用のカードをノートパソコンや PDA に取り付けて、携帯電話回線を使ってインターネットに接続することが一般化するだろう。そうなれば、ホテルなどの LAN の設備は必ずしもいらなくなる。

もう一つの外出先でのインターネットへの接続方法に無線 LAN がある。街なかの「ホットスポット」と呼ばれているところに無線 LAN のカードを搭載したノートパソコンや PDA を持っていけば、メールの送受信やウェブの閲覧ができる。例えば、NTT コミュニケーションズのサービスに加入すれば、1 か月 1,600 円で、ドトールコーヒー、モスバーガー、ミニストップなどの店やホテルのロビーでインターネットを使うことができる。また、アメリカの T-Mobile のサービスに加入すれば、1 か月約 30 ドルで、スターバックスのコーヒー店、空港のラウンジなど、全米の約 4,600 か所 (2004 年 5 月現在) でインターネットが使える。

このホットスポットの問題は、無料のものは別にして、契約した業者のホットスポット

しか使えないことである。また、ホットスポットを街中に広げて、「点」でなく「面」で使えるようにしようという試みもあるが、もしそうなったとしても、市街地のごく一部に限られ、全国どこでもというわけにはいかない。したがって、携帯電話回線による高速モバイル接続が一般化すれば、無線 LAN は、オフィス、家庭、飛行機などの中で、WAN によるインターネット接続の延長として、ケーブル接続の LAN のかわりに使うのが中心になるだろう。

どの携帯電話会社も、自社の通信網を単なるインターネットへのアクセス網として提供することに積極的でなく、メールのサービスやコンテンツの提供と合わせて付加価値を上げることに熱心である。しかし、モバイル族にとっての最大のニーズは、どこからでも安くインターネットにアクセスし、契約しているプロバイダや勤務先のサーバへアクセスすることなので、それを軽視したらうまくいかないだろう。

「Computer & Network LAN」2004 年 7 月号

【後記】 NTT ドコモの HSDPA は、計画より遅れて 2006 年 8 月にサービスが始まった。

NTT コミュニケーションズのホットスポットは、その後使える場所がかなり変わったが、現在国内約 4,000 のアクセスポイントで使えるという。また T-Mobile のホットスポットは全米で 1 万か所以上に増えたという。

その後、ここに記したように、データ通信カードを使ってパソコンを携帯電話回線に接続し、インターネットを使うことが一般化しつつある。それには、HSDPA などの高速回線が普及したことのほか、携帯電話事業者がデータ通信料金に定額制を導入したことが大きく寄与した。現在は 3 Mbps 程度の通信が 6,000 円/月程度と、速度も不十分で料金も高いが、2010 年に登場すると言われる LTE という次期携帯電話は 100Mbps 以上になるので、今後、携帯電話回線がモバイル族の道具の主流になっていくと思われる。